「竜の女への威嚇」　　2019 年 09 月 06 日

ヨハネの黙示録　12 章 13 節～18 節　竜は、自分が地上へ投げ落とされたと分かると、男の子を産んだ女の後を追った。しかし、女には大きな鷲の翼が二つ与えられた。荒れ野にある自分の場所へ飛んで行くためである。女はここで、蛇から逃れて、一年、その後二年、またその後半年の間、養われることになっていた。蛇は、口から川のように水を女の後ろに吐き出して、女を押し流そうとした。しかし、大地は女を助け、口を開けて、竜が口から吐き出した川を飲み干した。竜は女に対して激しく怒り、その子孫の残りの者たち、すなわち、神の掟を守り、イエスの証しを守りとおしている者たちと戦おうとして出て行った。そして、竜は海辺の砂の上に立った。

天において、太陽、月、12 の星などの天体を身にまとった一人の女が子を産む陣痛の痛みと苦しみのために叫んでいた。その時、7 つの頭に冠をかぶり、10 本の角を持つ「火のように赤い竜」が殺害の息を弾ませ、尾で星を掃き寄せて地上に投げつけ、凶暴に荒れ狂っていた。竜は女が子を産んだら、その子を食べようとしていた。女は男の子を産んだ。その子は、鉄の杖で国民を治めるために、神のもとへ昇天し、玉座に引き上げられた。

天で戦いが起こった。大天使長の一人で、イスラエルの守護天使であるミカエルとその使いが竜に戦いを挑み、竜とその使いは応戦した。竜は敗北して、居場所をなくし、地上に投げ落とされた。竜は、蛇、悪魔、サタンとも呼ばれ、全人類を惑わす者である。竜はローマ帝国を、女はキリスト者・教会を指している。

ミカエルの一団と戦い、敗北して、地上に投げ落とされた竜は、怒りに燃え、男の子を産んだ女の後を追い、苦しめようとした。しかし、女には大きな鷲の二つの翼が与えられ、荒れ野にある自分の場所に飛んで行った。出エジプト記 19 章 4 節に「あなたたちは見た／わたしがエジプト人にしたこと／また、あなたたちを鷲の翼に乗せて／わたしのもとに連れて来たことを」と書かれているように、女は鷲の翼で竜から神のもとへ逃げることができた。また、第二イザヤが、捕囚の地バビロンから故国エルサレムに帰還する時、「主に望みをおく人は新たな力を得／鷲のように翼を張って上る。走っても弱ることなく、歩いても疲れない（イザヤ書 40：31）」と、神の確かな守りがあると歌った歌を連想する。女はそこで、養われ、神の強い守りの下にあったのである。「蛇（竜）から逃れて」は、迫害から逃れたことで、「一年、その後二年、またその後半年の間」の 3 年半は、12 章 6 節の 1,260 日の日数に対応している。

蛇（竜）は、口から川のように水を女の後ろに吐き出して、女を押し流そうとした。竜はもともと底なしの淵の支配者なので、水を川のように吐いて、押し流すことができたが、大地は口を開けて、竜が吐き出した川を飲み干し、女を助けた。竜は女を滅ぼすことができないので、激しく怒った。そこで、子孫の残りの者たち、即ち、神の掟を守り、主イエスの証しを守り通している者たちと戦おうとして、出て行き、海から陸に向かって、キリスト者を攻撃しようと、海辺の砂の上に立った。

黙示的表現は隠喩法による表現である。迫害を加えるローマ帝国側は、竜、ミカエル、女などが何を意味しているのかを全く理解できない。しかし、聖書の歴史に生きてきた、黙示文学を知る者には、それらが何を指しているかが分かっていた。彼らは、この黙示録を読み、迫害は終わり、キリストの勝利の時が来ると信じ、今の苦しみに耐えたのである。